

緑の相談所だより

発行
平成 17 年 2 月 1 日

編集

財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑の相談所

No.92

講習会のご案内

【 果樹と花木の剪定 】

日 時 平成17年2月13日(日) 午後 1:30 ~ 3:30
講 師 緑の相談所 相談員 佐藤 吉光
定 員 50名

【 洋らんの管理 】

日 時 平成17年2月27日(日) 午後 1:30 ~ 3:30
講 師 旭川蘭友会 会長 笠原 幸三
定 員 50名

【 花壇のデザインと花づくり 】

日 時 平成17年3月13日(日) 午後 1:30 ~ 3:30
講 師 緑の相談所 相談員 伊藤 征夫
定 員 50名

【 家庭菜園の準備 】

日 時 平成17年3月27日(日) 午後 1:30 ~ 3:30
講 師 緑の相談所 相談員 芝山 一雄
定 員 50名

cattleya



お問い合わせ・お申込み

電話 (0166) 65-5553 旭川市緑の相談所まで。
どうぞお気軽にお電話ください。
なお、定員になりしだい募集は締め切らせていただきます。
お早めにお申し込みください。

2月の園芸作業

1 鉢花類

- ☆ 日照時間が長くなっていくので生長も目立ってきます。開花の続くプリムラ類、サイネリア、シクラメン、カルセオリアなどは1000倍に薄めた液肥を週1回以上、固型肥料も月1回は与えましょう。
- ☆ 草花類のさし芽の時期でもありますので、伸び始めた新芽を長さ5~7センチに切り、さし穂を20分くらい水に浸し水上げ後、火山レキ、川砂などで「さし芽」をして若い苗を仕立てましょう。
- ☆ 取り扱いが容易で4月から花を楽しめるキンセンカ、キンレンカ、ホウセンカ、マリーゴールドなどはポットや育苗箱にまきましましょう。

2 花木類(温室性花木)

- ☆ 新梢の伸長が目立ち花が咲き始めるので、水は毎日十分与え、肥料も1000倍以上に薄めた液肥を週1~2回、固型肥料は月1回程度、リン、カリが多く含まれているものを使用しましょう。
- ☆ ランタナ、フクシャ、アブチロンなどは新梢が伸びてくるので切りましょう。切った新梢は草花類と同じようにさし木しましょう。

3 観葉植物類

- ☆ 観葉植物の種類は大変多いので、植物の性質をよく理解して、置かれた場所の室温、空中湿度などに注意して管理しましょう。
- ☆ 葉の大きなポトス、シンゴニウムなどは乾燥に弱いので月3~4回水洗いしましょう。
- ☆ アジアンタムは環境の変化に敏感ですので急に置き場所を変えたり、乾燥すると、枯れることがありますので注意しましょう。

4 多肉植物・サボテン類

- ☆ 花が莖節についたクジャクサボテンは同じ場所でゆっくり育て、週3~4回水やりと1500倍に薄めた液肥を与えましょう。

5 洋ラン類

- ☆ シンビジウムは次年度の花芽を確保するために最初の花弁がしおれ始めたら花莖の付け根から切断しましょう。
- ☆ デンドロビウムは莖の上部に高芽が発生しやすいので、葉と根が2~3本出てきた時点でもぎとりこの芽を水苔に巻きつけて植えつけると3年後には開花します。

3月の園芸作業

1 鉢花類

- ☆ シクラメン、プリムラ類、サイネリアなどは日中温度の低い(10~15℃)ところに置きましょう。
- ☆ 気温が高くなるに伴い、オンシツコナジラミ、カイガラムシ、ハダニ、アブラムシなどが短期間で発生します。加害の有無をよく点検し防除に努めましょう。
- ☆ ペチュニア、キンギョソウ、サルビアなどは用途の時期に合わせて種まきしましょう。草花類の「さし芽」も2月と同様にいきましょう。
- ☆ アマリリスの花莖が伸びてきたら水やり回数を多くし、1000倍の液肥を週1回以上与えましょう。

2 花木類(温室性花木)

- ☆ アザレア、キョウチクトウ、ノボタンなどの新梢は2月と同様にさし木しましょう。
- ☆ ポインセチアは花後、基部より10cmばかり残し莖を切り詰めて植え替えしましょう。
- ☆ ノボタンは日当たりが悪いと徒長します。伸びた枝を剪定し側枝を出すようにしましょう。

3 観葉植物類

- ☆ ゴム、モンステラ、ポトス、ドラセナ類など葉が大型の種類は週2~3回濡れタオルで拭いたり、月に1度は浴室で葉を水洗いしましょう。
- ☆ 生長が目立つ種類は液肥の回数を増やしましょう。
- ☆ コーヒーの木は温度が低いと落葉するので注意し、水やりや葉水も毎日行い、1000倍の液肥を週1回、置肥も月1回与えましょう。

4 多肉植物・サボテン類

- ☆ サボテン類は休眠から覚めるため花芽が現れ開花してくるので鉢は日当たりの良い窓辺に置きスプレーなどで散水しましょう。
- ☆ 多肉植物は水やり、液肥の回数を多くしましょう。
- ☆ サボテン類の植え替えの適期ですので、養成中の株は植え替えをしましょう。

5 洋ラン類

- ☆ シンビジウムは1日も早く植え替えましょう。6バルブ以上の大株は株分けと1バルブ1芽になるよう芽かきしてください。その後は日当たりの良い場所に置きましょう。
- ☆ デンドロビウムはいきなり直射日光に当てず徐々に慣らさせます。

鉢植え植物の用土と水やり

冬の生活の心を和ましてくれた植物たちも春を今か今かと待ち望んでいることかとおもいます。これらの植物を暖かい春まで快適に生育をさせるために鉢植え植物の用土と水やりについて考えてみましょう。

1 鉢の用土は赤玉土 7割に対し腐葉土 3割が基本

外の畑などに植えられている植物の根は土の中に伸びて広がり必要な水分、養分、酸素等を吸収し、不足があればどこまでも伸びていき、それらを確保して生活しています。一方鉢植えの植物は限定された鉢の中で外の植物と同じ生活を強いられています。しかし、自分ではそのハンディキャップをどうすることも出来ません。それを解決するのが私たちの仕事であり、栽培管理というものです。その中でもっとも留意しなければならないのは、用土の選定と水やりです。鉢の中の水はきわめて小さな場所なので植物に吸収されたり、蒸発によってすぐになくなってしまいますから、頻繁に水をかけなければなりません。用土は水をかけられると、細かく砕かれて固く締まっていき、最後には空気も水も通らなくなり、植物の根も伸びられなくなって、しまいには枯れていきます。このようなことを克服するために水やりによっても砕かれず、適度な隙間を維持するとともに、保水力をもった用土が必要となります。

現在、市販されている用土として、水やりで砕けず、保水力のあるものとして、赤玉土、火山レキ、鹿沼土等があり、さらに、これらの保水力を高め根の発達を促す材料として、腐葉土や、ピートモスがあります。これらを、植物の性質にあわせて混合し、用土が作られるわけです。そのもっとも基本的な例を次にあげておきます。

鉢の用土の基本例

- | | | |
|--|------------|-------|
| ・ 一般の植物 | 赤玉土と腐葉土を | 7 : 3 |
| ・ 乾燥を好む植物
(サボテン・多肉植物等) | 火山レキと腐葉土を | 7 : 3 |
| ・ ツツジ類
(鹿沼土・ピートモスは酸性の性質を持っており、ツツジ類などはこれを好む) | 鹿沼土とピートモスを | 7 : 3 |
- * 火山レキ、赤玉土、鹿沼土の粒の大きさは5号鉢以上で中粒のものを使いましょう。

2 水やりは土の表面が乾いたら底穴から流れ出るまでたっぷり与える (受け皿に流れ出た水は必ず捨てましょう。)

植木鉢の水やりは、植物の水分の補給ばかりではなく鉢の中の汚れた気体の入れ換えの働きを担っているのです。よく少しずつ毎日水をやる方を見かけますがこれは大間違いです。こうすると何時も用土が湿っている状態になり、根の呼吸が妨げられて根腐れの原因になってしまいます。

花言葉

新年を迎えて早一月が経ちました。室内園芸で楽しんでいる鉢花や観葉植物の生育は順調ですか？春の日差しとともに植物はいっぺんに生氣を取り戻します。それまでがんばって育ててください。

今回は初春の室内園芸で人気の高い「アザレア」と「アマリリス」についての花言葉を見てみましょう。

アザレア 花ことば【禁酒(英)】

アザレアはツツジ科の花で、花色が赤、白、ピンクのほか絞りや覆輪など多彩な上、花形も一重、半八重、八重、と様々で早春の室内で楽しむ花として古くから人気があります。

原産地はアジアの山岳地帯と北アメリカといわれています。語源はラテン語のアザロス(乾燥)でこの属の植物が乾燥した土地を好むことをあらわしていますが、これには異説があるようです。

後年アザレア属がロードデンドロン属に統一され植物学上では名が消えたのですが、園芸会ではアザレア名で残っていて、西洋ツツジを総称しているようです。1800年の中頃から現在までおびただしい数の品種がアメリカ、イギリスなどで作出され市場に出回っています。

鉢選びのポイント

- ・ つぼみが大きくふくらみ、3分咲きくらい開花が進んだもの
- ・ 幹や枝ぶりがしっかりしていて、葉が濃緑色でつやが良いもの
- ・ 病気や害虫の被害が無く、鉢土の根詰まりが無いもの



アマリリス 花ことば【まったく美しい(仏) すばらしく美しい・誇り・内気(英)】

冬から早春にかけて大きな球根から力強い花茎を伸ばし、数個の豪華な花を咲かせます。まさに「春球根の女王」と呼ばれるにふさわしい花です。

アマリリスはヒガンバナ科でスイセンなどと同じ仲間、西洋の俗名では「ベラドンナ・リリー」と呼ばれています。ベラドンナはイタリア語で「美しい奥方」という意味で、昔は球根から取った液を薬剤として、目の瞳孔を開き、目をはっきりさせるのに使われたといわれています。

原産地は南米ペルー、ブラジルなどを中心に分布していますが、南アフリカの喜望峰原産のものがアフリカ西北岸のマディラ島に移植され世界に広まったといわれています。

学名はアマリリス・ベラドンナで1633年にイタリアの植物書に記載されたのが始まりですが最近では早春の室内園芸に欠かせられない花になっています。

今、花屋さんで見かける球根はほとんどがオランダで改良された輸入品で白色を中心に赤やピンクの絞りやミニアマリリスなど数多くの品種が出回り楽しみが多くなっています。

球根選びのポイント

- ・ 球根が大きく、締りが良いもの
- ・ 球皮に傷や病気の後が無いもの
- ・ 品種名の明記があるもの

* ふた付きポット入りの球根の選び方は、鉢が花茎が伸びだしているものはそれだけ早く花が咲きます。誕生日や記念日に合わせて開花させる場合は、芽の出していないものを購入して、自分で開花調整をすると良いでしょう。

